

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	小 松 和 佳
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上に関する研究			
論文審査担当者 主 査 教授 井上 弥 審査委員 教授 山内 規嗣 審査委員 教授 児玉 真樹子			
〔論文審査の要旨〕 本論文は、幼児期の教育における子どもの発達と学びに大きな影響を及ぼす保育者の専門性について、保育カンファレンスの枠組みから検討したものである。保育カンファレンスの効果に関しては、保育者同士が相互に発話を関連させる言葉の相互共有が重要であるとされている。しかし、保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上と言語の相互共有との関係については、十分に明らかにされていない。そこで、本論文では、保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上を言葉の相互共有の観点から明らかにすることを目的としている。論文は、3章構成であり、第1章「本研究の背景と目的」に続いて、第2章「保育カンファレンスが保育者の専門性向上に及ぼす影響」で3つの実証的研究が報告され、第3章「総括」で研究の成果が論じられている。 第1章「本研究の背景と目的」は、以下の3節から構成されている。第1節「保育者の専門性」では、保育者としての経験の蓄積という観点から、保育者の専門性である子どもを理解する力、状況に応じて総合的に指導する力、保育を構想し実践する力の3つの力を整理し、3つの力の向上の指標を提示している。第2節「保育カンファレンス」では、先行研究を概観し、保育者の専門性向上を検討するために、保育者の専門性の指標を明確に提示すること、また、保育者同士が言葉を相互共有し、保育の枠組みを捉え直すプロセスとの関係を検討することが必要であると指摘している。そして、第3節「本研究の目的と構成」では、以上のような背景を踏まえて、保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上に寄与する資料を提供するための具体的な目的を述べている。 第2章「保育カンファレンスが保育者の専門性向上に及ぼす影響」は、以下の3節から構成されている。第1節「継続的な保育カンファレンスが保育者の専門性向上に及ぼす影響（研究1）」では、保育者が捉える保育カンファレンスを通じた学びと、保育者の専門性である3つの力の向上との関連を検討している。その結果、継続的な保育カンファレンスを経験した保育者は、保育者の専門性である3つの力を向上させていたことを明らかにしている。また、保育者の専門性を向上させた保育者は、保育カンファレンスにおける他の保育者の発話を契機にした自身の枠組みの捉え直しを通して、専門性である3つの力を向上させていることを示している。第2節「保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上に関する検討（研究2）」では、保育カンファレンスにおいて保育者が相互に発話を関連させる言葉の相互共有に着目し、保育者の専門性である3つ			

の力を向上させるプロセスを検討している。その結果、保育カンファレンスにおける保育者の専門性は、保育者が言葉の相互共有を行う共同行為の中で、互恵的に向上することを示している。また、保育者の専門性向上プロセスから、保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上を促す要因には、自己開示（課題及び悩み）した上で問いかけること、共感的に応答すること（自身の経験を踏まえた問いかけ、提案）の2つがあることを明らかにしている。第3節「保育者の専門性を高める保育カンファレンスに関する検討（研究3）」では、第2節で明らかとなった保育者の専門性を向上させる2つの要因が、実際の保育カンファレンスの枠組みの中で汎用できることを検証している。その結果、2つの要因を踏まえた保育カンファレンスにおいては、保育者の専門性である3つの力の向上を促すことを実証している。

第3章「総括」は、以下の3節から構成されている。第1節「総合的考察」では、上記の研究の成果と先行研究の知見を合わせて、保育カンファレンスにおける保育者が、受容され、共感されたと捉えることができるような発話を行うプロセスが保育者の専門性向上に有効であること、また、本論文が明らかにした2つの要因は保育カンファレンスにおける保育者の専門性を向上させるために有効な具体的な発話であることを考察している。第2節「教育的示唆」では、本論文の意義を3点にまとめている。1点目は、本論文が提示した保育者の専門性の指標を活用することにより、保育者の専門性である3つの力がどのような状態に向上したのか明確に捉えることができることである。2点目は、保育者が、保育カンファレンスにおける保育者の専門性を向上させる要因を理解することにより、自身の役割を具体的に知ることができることである。3点目は、保育カンファレンスにおける保育者が、保育者の専門性向上の要因となる発話を行うことにより、園全体のコミュニケーションが促進され、保育者の専門性が高まる保育カンファレンスへの変容を可能にすることである。第3節「今後の課題」では、保育カンファレンスにおける進行係が保育者同士の言葉の相互共有に及ぼす影響の検討、保育カンファレンスにおいて高められた保育者の専門性である3つの力を保育実践の場へと還元するプロセスの検討、様々な保育カンファレンスにおいて本論文の知見を検証すること、が今後の課題であると述べている。

本論文で高く評価できるのは、保育者の専門性である3つの力の指標を明確に提示した上で、保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上を明らかにした点である。具体的には、以下の3点に示すとおりである。

- (1) 継続的な保育カンファレンスが、保育者の専門性である3つの力の向上を促すことを明らかにした点。
- (2) 保育カンファレンスにおける保育者の専門性である3つの力の向上には、保育者が言葉の相互共有を行い、保育の枠組みを捉え直すというプロセスが重要であることを示した点。
- (3) 保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上の要因を明らかにし、実際の保育カンファレンスの場で汎用できることを検証した点。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与されるに十分な資格があると認められる。

令和2年11月30日